

船橋市長賞

税金について

船橋市立前原中学校

第三学年

鷲野 璃衣

私が税金を意識するときといえば、店内で食するときの軽減税率くらいでした。持ちかえりは8%、店内は10%と8〜10円もの税金を追加で納めます。自分で納税しているということを改めて考えると、やはり気になるのは税金の使われ方です。

税金の無駄遣い、という言葉はテレビやインターネットでたびたび賑わせています。議員が空出張していましたが、全く利用客の見込めない空港が建設されてその維持のために多額の税金が使われています、なごきりがありません。私の周りでも、十分にきれいな道路を何度も舗装を繰り返したりしていますが、これもその無駄遣いに該当するのだと感じています。

その一方、公立中学校の生徒である私は、税金のおかげでたくさんのお恵を受けている

一人です。改築された快適な校舎の建築費用や維持費用、美味しくバランスのよい給食の費用、先生方を含めた学校職員のお給料、テニス部で使用していたテニスコートやテニスのネット、そして病気やケガをしたときの医療費用の補助。どれも、私たち学生にとっては非常に有益です。

このように、税金が有益に使われていればより充実した生活を安心して送ることができるところです。有益に使われる税金が多ければ多いほど、充実した生活はより広く、より深く人々に行き渡ります。

ではなぜ、無駄遣いなどということが起きてしまうのでしょうか。不正受給などは個人のモラルの問題もありますが、私は税金の仕事そのものに何かしらの課題があるのではないかと考えました。

税金は様々な種類があり、その種類によつ

て納税先が国と地方自治体（県、市町村）と異なります。また、使用用途を限定して徴収する税金とそうでないものがあります。すなわち、私たちが受ける様々なサービスは、住んでいる自治体や年齢、職業、さらには、サービスの提供元が国なのか地方自治体なのかによっても異なるということです。このような細分化は、色々と検討を重ねて定められた必要なものです。しかし、その弊害として無駄遣いが起こってしまうのではないかと考えました。また、時代と共に人々の生活も大きく変わり、これまで提供してきたサービスの必要性も都度見直しが必要なのです。私たちが求めるサービスの多様化に、提供側がついていけない場面も多々あるのだと思います。

いま日本は少子高齢化が進み、納税者の人口が減少している問題は今後さらに深刻になるでしょう。その中で、いかに税金を確保するか、という視点だけではなく、いかに税金を有効に効率よく使用するかが重要となります。私たち若い世代も国民の一人だという自覚を持ち、様々な税金の課題にきちんと向き合っていくべきだと強く感じ、自分自身何ができるか考えていきたいです。